

# 新疆：西側が中国のテロリズム対策について語らないこと

单伟建 (Weijian Shan)

[解説・翻訳] 中国の新疆政策の背景理解のために

武市一成 (埼玉学園大学人間学部講師)

中華人民共和国 (以下、中国) が、特定の少数民族集団に対して「人権侵害」をおかしているとする言説が、アメリカ合衆国 (以下、アメリカ) を始めとした、所謂「西側」諸国において広く流布されている。特に、新疆ウイグル自治区において、中国がウイグル族に対する「ジェノサイド」や「強制労働」のごときものを行っているとする根拠薄弱な情報が広がっている。ニューヨーク・タイムズ、CNN、BBC など、アメリカやイギリスの商業メディアは、ほぼ横並びで中国を批判・糾弾する言論を展開しており、日本の商業メディアもこれに追従して、異論や反論の類は、全くと言ってよいほど見当たらない。

現地には様々な人々の関係性にもとづいた生活実態があり、それには歴史的背景が存在する。しかし、そのような客観性を備えた深みのある報道はほぼ皆無とすら言うてよく、ディテールを欠いた結論ありきの議論が蔓延しており、日本社会における中国理解に甚だ悪影響を与えている。これらの議論は、中国が新疆ウイグル自治区で行っている貧困緩和政策に関するデータや人口統計、過激な分離主義勢力にたいする脱急進化政策 (deradicalization programs) に関わる情報を、恣意的に組み合わせて、「強制労働」や「ジェノサイド」にこじつけているようなものが多い。

そうした中、4月14日付の香港の『サウス・チャイナ・モーニング・ポスト』(南華早報) に、单伟建 (Weijian Shan) による Xinjiang: what the West doesn't tell you about China's war on terror (新疆：西側が中国のテロリズム対策について語らないこと) と題する記事が掲載された。アメリカが中国にたいして「ジェノサイド」疑惑を展開し始めた政治的背景と、中国が新疆で行ってきた過激な分離主義勢力にたいする脱急進化政策との関係を説明しているものであり、現地の実態をより客観的に理解するうえで有用な情報を含み、広く読まれる価値のあるものと思われるので、以下に紹介したい。

著者の单伟建は、中国出身の経済学者・実業家であり、北京の對外経済貿易大学で英語を学び、サンフランシスコ大学で修士号 (MA)、カリフォルニア大学バークレー校で修士号 (MA) と博士号 (PhD) を取得し、母校の對外経済貿易大学でも教鞭をとった。代表的著書として、内モンゴルのゴビ砂漠における自身の下放政策体験などを描いた、*Out of the Gobi: My Story of China and America* がある。

## 新疆：西側が中国のテロリズム対策について語らないこと

Weijian Shan

Published: 1:30am, 14 Apr, 2021

3月22日、アメリカとEUが、新疆ウイグル自治区における主要民族集団のウイグル族に対する人権侵害が行われているとして中国に対して制裁を行った。

それは、当時のアメリカの国務長官マイク・ポンペオが、任期最終日の1月19日に、中国がウイグル族に対して現在進行形のジェノサイドを行っていると言明して始まった中国に対する一連の動きの中の最新のものであった。

ポンペオは何の証拠も示さなかった。他ならぬ国務省の弁護士が、ジェノサイドがあるとするには不十分な証拠しか見出していないことがフォーリン・ポリシー誌によって報じられた。続いて、カナダ議会が、新疆での「ジェノサイド」を認定する動議を可決したが、ジャスティン・トルドー首相は、その言葉を「含みがありすぎる」として受け入れを見送った。

中国は、虚偽の拡散と偽善により西側を糾弾し、ヨーロッパの議員に制裁を発動することによって報復した。

西側でお目にかかることのない議論は、新疆では、テロリズムが猖獗を極めていたことと、今日でもテロリズムが深刻な脅威であり続けていることである。

私は、数年前まで、新疆の2社に何千万ドルも投資したアメリカ企業のために、香港から新疆をしばしば訪れていた。

いずれの会社も、ウイグル族と漢族を雇用していたが、彼らの仕事は切望されるものであった。訪問中、私は、主催者によって、ウイグル族のバザー、ウイグル族の夕食、ウイグル族の舞踏会などに誘われた。私が会った役人は、ほとんどがウイグル族であった。

しかし、2007年頃から、新疆を訪れるのは非常に危険になっていた。新疆は、千人以上の死者と数えきれないほどの負傷者を出すテロリスト攻撃に連続して見舞われていたからだ。たとえば、2009年6月5日には、首府のウルムチで暴動が起きて、切り付けられたり、殴られたり、焼かれたりして、197名が命を落とし、1721名が負傷した。2014年5月22日には、ウルムチで車2台が爆発して、43名が死亡し、94名が負傷した。そのほかに何十もの攻撃があった。

過激な暴力は新疆に限らない。2013年には、北京で3名のウイグルが自爆攻撃を行い、5名が死亡し、38名が負傷した。2014年には、ナイフを持った8名の

ウィグルが殺戮を展開し、昆明駅において 31 名が死亡し、141 名が負傷した。

アメリカ政府委託の 2016 年の調査は、2012 年から 2014 年において、中国国内の攻撃は、明らかにより頻繁になり、地理的により拡散し、標的がより無差別的になっていると報告していた。多くの場合、加害者は急進的なウィグルであった。

背景報告は、さらに次のように述べていた。「騒擾の起きやすい西部地域が 2014 年に複数の攻撃に見舞われ、攻撃者の集団と、その集団のイスラム原理主義との結びつきが、国内で高まるテロリズムの脅威についての中国の懸念を深めている。東トルキスタンイスラム運動 (ETIM) は、より過激な分離主義的集団のひとつとして国務省にリストアップされている。トルコ、カザフスタン、キルギスタン、ウズベキスタン、パキスタン、アフガニスタン、新疆ウィグル自治区の諸地域を含むエリアをカバーする東トルキスタンと称する独立国家を立ち上げることが志向している。」

2002 年に、アメリカと国連は、共に ETIM をテロリストグループであるとし、国連安全保障理事会も、同グループのアルカイダ、オサマ・ビン・ラディン、タリバンとの結びつきを示唆していた。

ウィグルの戦士は、アフガニスタンやその他の地域において、アメリカ軍と交戦し、多くが負傷し、殺害され、拘束された。アメリカは、22 名のウィグルをグアンタナモにおいて何年も収容した。2020 年 7 月には、国連が、何千人ものウィグルの IS 戦士を、シリアやアフガニスタンにおいて確認している。

9・11 後の「テロとの戦い」一皮肉にも、その中において、アメリカは中国を共闘のパートナーと考えていた一のように、中国は新疆において、自らの対テロ闘争を繰り広げていたのである。過激派は、侵入しやすい中国の国境をまたいで活動し、タリバンや IS と肩を並べて訓練する。新疆に戻ると、彼らは一般人に紛れて、若者を過激主義やテロ行為の画策と実行に駆り立てる。

中国の反テロ対策は、セキュリティの向上や、中国が呼ぶところの職業訓練や教育を含む。新疆ウィグル自治区の首席でウィグルのショハラト・ザキルは、2019 年の記者会見において、訓練は職業技術や普通話の習得と脱急進化を含むと述べている。

彼は、全ての訓練生は 2019 年末までに訓練を終えているが、研修施設は学校として機能し続けるとも述べている。罪のない市民が誤って拘束されている可能性はないのであろうか。推測の域を出ないが、その可能性は否定できない。これらの施設において、人権侵害が行われてきたのであろうか。批判的に見るならば、そして、ETIM のプロパガンダの活発さを考えれば、事実も含まれている

であろうし、明らかなフェイクもあるだろう。しかし、当局からの命令によって、人権抑圧が組織的に行われているという証拠は存在しない。

中国の反テロリズム対策がいかに厳しいものであれ、アメリカのそれと比べると霞んで見える。様々な推計によれば、アメリカの「テロとの戦い」によって、50 万の命が、アフガニスタンとイラクで失われており、さらに多くの命が、パキスタン、シリア、そしてリビアで失われている。イラクでは、戦闘により、20 万人の民間人が死亡しているが、それらの大多数は女性と子どもであり、イラク軍の死者を 5 対 1 で上回っている。

しかし、アメリカは、上院諜報活動特別委員会の報告において、イラクの 9.11 との関係、アルカイダとの関係、大量破壊兵器の保有に関する、何の証拠も有していないことを認めているのである。多くの市民の命が何の意味もなく失われたことになる。

アメリカの「テロとの戦い」と異なり、中国の反テロリズムキャンペーンは機能しているように思われる。2017 年以降、何のテロ攻撃も報告されていないのだから。

実際のところ、世界中のどこでも手を焼く問題であるテロリズムを、一般市民を巻き込むことなく抑えているのは、特筆すべきことである。この事実は、西側メディアの糾弾の奔流の中において、全く指摘されていないことである。アメリカが中国をジェノサイドで糾弾するのならば、中国がアメリカを二重基準で糾弾することにも正当性があると言えないであろうか。

2020 年 11 月 5 日、アメリカ大統領選挙の 2 日後に、トランプ政権は ETIM をテロ組織のリストから外した。これ以上皮肉なタイミングはない。トランプが自らの政治的困難の原因として繰り返し糾弾してきた中国に意趣返しをするこれ以上の方法があるであろうか。

大統領の一筆で、ETIM のテロリズムはアメリカにとってもはや脅威ではなくなり、同時に、中国の対テロリズムキャンペーンの国際的な正当性も失われたのである。それが、ポンペオが、荷造りをして職を離れようとしていたまさにその日に、ジェノサイド宣言をするための道を開いたのであるが、そのタイミングは、偶然とは言えないものであった。戦うべきテロリストがいなくなると同時に、中国の対策は、自動的に「民族抑圧」のラベルを貼られることになる。

対テロリズムの名分を打ち消すことにより、西側の政治家は、中国の反テロリズム対策を、単なる宗教・民族抑圧の枠にはめ込むことが出来ることになったのだ。

中国には250万人のイスラム教徒が存在する。北京だけで25万のイスラム教徒がおり、70以上のモスクがある。中国の新疆における政策は、一定のレベルにおいていかに厳しく見えようが、特定の宗教や民族ではなく、過激主義がターゲットである。主要イスラム教国家はこれを理解するし、実際公式に中国を支持している。

ジェノサイドの主張が示唆するのは、ひとつの集団が他の集団を抹殺する試みである。しかし、西側の一部が主張するような、ウイグルを減少させる組織的な行為がなされているという証拠は存在しない。

40年の間に、新疆のウイグル人口は550万から1200万人に増加している。2010年から2018年の間に、ウイグルの人口は、漢族の2%に比較して、25%増加しているのである。

中国が1979年から2015年の間に一人っ子政策を行ったのはよく知られている。よく知られていないことは、ウイグルのような少数民族は産児制限から免除され、農村地域では3名まで許容されていたことである。中国の産児制限政策は、ウイグルを含む少数民族に反するのではなく、むしろ彼らのために適用されるのである。

新疆大学のウイグル人研究者ズリヤティ・シナイによれば、新疆の人口増加率は2018年に下降したが、それは国全体の傾向と一致しており、それでも全国平均よりは高かった。中国は一人っ子政策をやめたが、2016年以降の新生児の数は減少している。昨年、出生は、中華人民共和国の歴史上最低の1千35万人に急降下したが、この傾向から、中国政府が自国民にジェノサイドを行っているなどというのは馬鹿げたことである。

ほとんどの西側のジェノサイドに関する報告は、ワシントンの共産主義犠牲者記念財団に雇われているドイツの新生キリスト教徒エイドリアン・ゼンツという単一のソースに依存している。

私が確認した限りでは、彼が用いている全ての統計的データは、西側で流布しているそのようなあらゆる統計と同じように、中国政府が出版したものであるが、それは政府のみが組織的に統計的データを集められることを考えれば理解可能なことである。しかし、彼は、いくつかのデータをオリジナルとは全く異なる意味に解釈している。

たとえば、中国は、貧困層の他地域での就業を助けたり、辺境から電力のアクセスがより容易な地域へ村全体を移動したりする反貧困政策を何年にもわたって行ってきた。しかし、ゼンツのような人々は、そうした政策に関するデータを、強制労働移住やジェノサイドの証拠として引用している。

中国の問題は、独立した媒体がないために、新疆の状況の独立した検証がないことなのである。

北京へのアドバイスを一言。あなた方の努力は、そのままテロ組織とそのプロパガンダ製造機関の標的にされる。情報戦争を勝つためには、外国のプレスを味方につけなければ、ETIMの手に落ちる危険をおかす。

私は、テロ攻撃の犠牲者の証言に接しているが、彼らの苦しみに胸が張り裂ける思いがする。レポーターを彼らのもとや訓練センターに連れて行くのが良い。透明性は噂を払しょくし、嘘を暴き、友人を得る最善の方法だ。

新疆での平和が続くのかはわからない。アメリカは何十年にもわたって、終わりの見えない、永遠のテロとの戦いを戦っている。テロリズムの原因は根が深く、社会、経済、宗教、そして歴史の多岐にわたるものだ。テロリズムは、出てくるたびに悪者をやっつける「モグラたたき」戦略で根絶出来るものではない。問題の根源に対処しなくてはならず、それは、貧困緩和、就業、寛大な経済政策、そして教育を含む。

中国は、国際社会の公的空間で村八分にされている。深まる対立により、西側との関係が悪化している。しかし、あらゆる分野において、議論は白黒からは程遠いものだ。過去4年の教訓は、事実が物を言うということだ。新疆の政策がまさにそのケースだ。中国指導部は、自らの反テロリズム対策の説明をより効果的に行わなくてはなくてはならない。そして、西側は、同様の問題について、鏡にうつる自らの取り組みをよく見なくてはならない。

原文 URL :

[https://www.scmp.com/comment/opinion/article/3129325/xinjiang-what-west-doesnt-tell-you-about-chinas-war-terror?utm\\_source=Facebook&utm\\_medium=share\\_widget&utm\\_campaign=3129325&fbclid=IwAR110D\\_kEQxs7CdY4S5hIBNYfgbIMLT4Q5B7K3H9hyzUFaQZhAnEEweI\\_88](https://www.scmp.com/comment/opinion/article/3129325/xinjiang-what-west-doesnt-tell-you-about-chinas-war-terror?utm_source=Facebook&utm_medium=share_widget&utm_campaign=3129325&fbclid=IwAR110D_kEQxs7CdY4S5hIBNYfgbIMLT4Q5B7K3H9hyzUFaQZhAnEEweI_88)